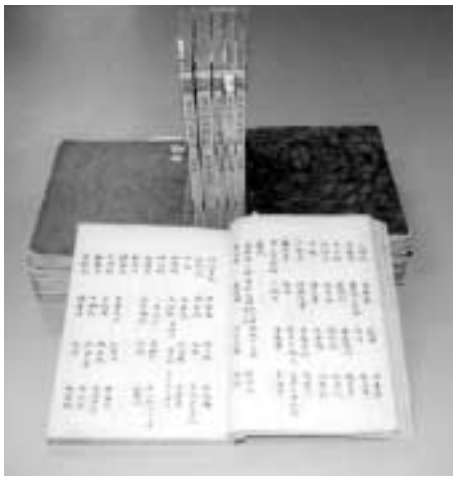
ISSN 1344－5499

2002. 3. 30

奈良県立奈良図書館報

うんてい

No. 73



郷土資料室所蔵資料から

『広大和名勝誌』 全16巻

植村禹言 著

全16冊の和装本。郡別に主要な史跡・名所・寺社を記し、古典・詩歌を引用。とくに添上郡の記述が詳しく、出典を明示する。版本はなく内閣文庫に自筆稿本がある。本書は写本の一つ。著者は添下郡疋田村の植村禹言。

経歴は不詳だが、本居宣長は『玉勝間』の中で「此人すべて国々所々の事を好みて記せるものかれこれおほかる中に、大和の国内のふるき所々の事は、ことにくはしく考へたりとぞ」と評する。

成立年代は、同書に天明2年（1782）2月27日に死去したとあり、本書に享保20年（1735）刊の『大和志』が引用されているので、享保20年～天明2年の間となる。ただ、禹言の死で未完に終ったらしく、項目に説明がない所や未整理の所がある。恐らく晩年の安永年間（1772～80）以後の著作であろう。

- 郷土資料室所蔵資料から『広大和名勝誌』 … 1
- 新コーナー“温故知新”
  〈県立図書館開館100周年目前インタビュー 第2回〉… 2
- 書誌データベースの構築に向けて 6 …… 4
- レファレンスあれこれ (17) …… 5
- 近代文学と奈良 10
  奈良をこよなく愛した歌人 会津八一 …… 7
- 〈ワンポイントアドバイス〉資料の所在について …… 8
- 奈良県「戦争体験文庫」 …… 9
- Pick up テーマ『ペンギン』 …… 10

誌 名 うんていは日本の公共図書館のはじめといえる奈良時代の芸亭院（うんていいん）による。

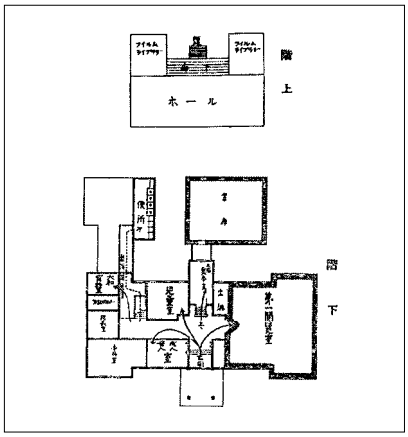
新コーナー

“温　故　知　新”

県立図書館開館100周年目前インタビュー　第2回

県立図書館は、7年後の2009年11月に100周年を迎えます。

私たちは県立図書館の歴史を振り返りたいと考え、前回は、中村前次長にインタビューし、ＢＭ（移動図書館）に絞ってお話を聞きましたが、今回もまた中村前次長に現在の図書館に移転する前後の動きを中心にインタビューし、ご本人にまとめてもらいました。平成17年度に新県立図書館が開館します。今回のインタビューで新館移行期のあわただしい雰囲気を感じとっていただければ幸いです。



➡旧館平面図

➡旧館閲覧室

➡旧館　整理風景

⬆旧館全景

1．旧館後期の話

…その頃の職員さんたちの一日はどんなものですか

当時も今と変わらず8時間勤務でした。ただし開館時間は午前9時から午後8時までの11時間でしたから、5時以降は宿直者と夜専門のパートさんと用務員さんとで、対応していました。休みは祝日と日曜日それに嬉しかったのは土曜日が半ドンでした。

…当時の職員数や組織はどうでしょうか

職員数は館長以下17名で、次長制が引かれたのは昭和42年ごろだったと記憶しています。係りは庶務・奉仕・資料の3係でしたが、奉仕係には巡回文庫と児童サービスが含まれ、資料係には今の整理と郷土資料室が含まれていました。施設は一階に開架閲覧室と新聞閲覧室、館長室、事務室、巡回文庫室、宿直室等があり、2階は児童室と郷土資料室がありました。用務員室とトイレは地下でした。当時の平面図がありますので参考にしてください。

また、利用者の便宜を図るため、小規模な部屋の配置換は毎年のように行われていました。（苦笑）

…利用者はどんな人が多かったですか

調査・研究のための利用は、今と比べものになりません。学生が殆どで試験期には学生で溢れていました。しかも、ロッカーはありませんし、入場制限はありませんので大変でした。

…自習生が多いのは今も同じですね。その頃は文化活動としてどんなことをされていたのですか

まず、婦人読書会と青年読書会の2つの読書会がありました。

婦人読書会は毎月一回会員相互の読書感想を発表したり、古典講座を開催されておられました。たしか帝塚山短大の鈴木昭一先生がご指導されておられました。図書館としては、資料と場所を提供していたと思います。青年読書会は図書館員も会員とし月

一回の読書会やハイキング、などに参加していました。私はチョットご遠慮申し上げていましたが…。

また、「奈良文芸」という同人雑誌を発行していました。それから、土曜文化講座を民主教育協会と共催していました。主に講演会で年間 8 ～ 10 回位開催され、なかなか当時の著名人が講師として招かれていたようです。

…今の図書館が建設されたきっかけはいつ頃からですか、昭和 60 年代は府県立図書館の建築ブームだったと聞いていますが

仰るとおりその頃 10 年間に 29 の府県が新改築するという大変動期でした。奈良県立も昭和 34 年に創立 50 周年を迎え、その頃から建物の老朽化と狭隘化が進み昭和 35 年頃から新館建設の計画が検討され出しました。

昭和 38 年奈良公園整備計画の一環として、新館建設が決定したと聞いています。構想としては、鉄筋コンクリート 3 階建、延べ 1,000 坪、席数 356 席、収容冊数 20 万冊、職員 55 名だったそうです。

その後文化会館との併設となり正式決定となったそうです…。以下ごらんの様な図書館が出来上がりました。（苦笑）

⬆ 新館全景

近つく新館デビュー

基幹図書も充実

整理、荷作りに大わらわ

県立図書館

⬅『大和タイムス』一九六八年三月四日付

2．新館移行期の話

…いよいよ新館に移るわけですが、その頃の苦労話とか…

昭和 43 年 6 月に開館したわけですが、開館に先立ち 3 年前から基幹図書の整備を図るため 3 年間で 1200 万円の購入費を頂きました。冊数としては約 5000 冊でした。当時資料費の総額が 200 万円だったことを見ても、大変な額だとおわかり頂けると思います。購入方法は入札制でしたので、1 冊 1 冊、入札額を比較するという大変な作業でした。

また、図書の移動も玄関から玄関までは業者にお願いしましたが、荷造り、荷解きは全部職員が行いました。新聞は雨漏り等のため使いものにならなくなったのが、かなりありました。今考えると大変勿体ない事をしたと思っています。

…新館の特徴といったものは

まず、郷土・行政・産業資料室、マイクロ撮影リーダー室、印刷製本室、視聴覚室があげられます。特にマイクロ・リーダー室は最新鋭の撮影機と自動現像機を装備していましたので、随分沢山の資料をマイクロ化する事ができました。その後は人手も少なくなり手間を掛けるより買った方が安くなり、とうとう使わなくなってしまいました。他に、婦人コーナー、軽読書室の設置も挙げられます。軽読書室は主要日刊紙を含む 17 種の新聞や 140 種の雑誌類とそれに読み物や趣味・娯楽等の図書を排架しました。

また、その他の活動としては、近世文書解説講習会が開館直後の 8 月に行われ新兵器を駆使して資料づくりしたことを思い出します。

⬅新館閲覧室

⬅新館書庫

書誌データベースの構築に向けて

― 遡及入力の現状 (6)　雑　誌 ―

雑誌のデータベース構築は、1998 年 8 月に始まった。図書よりも 3 年と少し遅いスタートだった。貸し出しは、バーコードリーダーで「ピッ。ピッ。」としているように見えながら、実は雑誌については、昔ながらの手法（手書き）で控えをとるというような期間があったのである。

雑誌データの入力は、まず利用が多い購入雑誌から始められた。老舗出版社のものが比較的多く、これらは出版事項の記載がしっかりしているので、入力は思ったよりもスムーズに進んだ。次にとりかかった寄贈の雑誌については、個人で発行されたものなども多く、データ作成に戸惑うことも少なくなかった。

ここで、データを入力する手順を大まかに説明すると、

1．タイトルレベルのデータ（＝書誌）を作成
　……誌名、出版者など
2．巻号レベルのデータを入力
　……その号の発行日、特集名など
3．合冊製本の状態を入力
4．所蔵巻号の簡略表記作成
5．4．のデータを NACSIS-CAT へ
　アップロード

以上のような手順になる。

書誌作成で戸惑ったのは、タイトルの変更がある雑誌である。当館は NII（国立情報学研究所）の規則に沿った入力をしている。この規則では、「原則として、句読点以外の変更は、変遷とみなす（新・旧字体の変更は除く）。」としており、文字種が変わった（平仮名→片仮名等）だけでも別のデータになってしまう。

毎号装丁を変え、タイトルも手書きの文字を使用したりと、非常に凝ったすばらしいものほど、タイトル変更につながってしまい、目録担当者としては悩ませられる。また、同じ発行物であるのに「研究所報」と「研究所所報」というように、毎号タイトルの記載が揺れるものなどもある。

ほかに、号の記載ミスや、古くて、製本状態の悪い雑誌などに悩ませられたが、入力開始から約 8 ヶ月で OPAC へのデータ表示ができるようになった。購入雑誌については、1999 年 3 月、寄贈雑誌については 2000 年 1 月から、入力の終わったものを順次公開し、図書館内外で利用してもらえるようになっている。今後は、郷土資料室の雑誌や、分類番号を与え、図書書架に並べている雑誌などについて、入力を進めていく予定である。

ここまで、なんとか入力作業が進められてきたが、実は我々が一番考えさせられたのは、「何が図書か、何が雑誌か」という基準を定めることだった。

NACSIS-CAT のデータベースも、当館のデータベースも、すべて「図書」か「雑誌」のどちらかに振り分けるようになっている。しかし、図書とも雑誌ともいえるものが、割に多い。内容だけを見れば、図書として扱おうかと思い、シリーズ名やシリーズ番号の記載があるのを見ると雑誌にしようかと迷う。例えば、大学や公的機関の研究報告書にこういったものが、多く見られる。

「図書」と「雑誌」ではデータ構造が違ってくるため、それぞれのメリット・デメリットも考慮しながら、振り分けの基準を考えていった。おおよそは出来上ったが、細部においては、まだ検討を重ねている状況である。

最後に入力の終わった数について報告しておく。

（平成 14 年 3 月末現在）

タイトル数　　：約　2,200
巻号データ数　：約 140,000

複数号を、1 冊に合冊されているものがあるので、冊数に換算すると、約 95,000 冊となる。

（髙辻　亜由美）

レファレンス・あれこれ ⑰－①

閲 覧 室

Q 久世光彦の『月がとっても青いから』に記載されている小沼丹の「バルセロナの書盗」という作品の「書盗」の読み方について。

A この質問は、視覚障害者のための録音テープや点字作成のボランティアをしている方からのものです。このような場合は、通常ご自身で調査をして、判らなかったものについて問い合わせてこられます。こちらもまず『日本国語大辞典』（小学館）等で「書盗」という言葉を探しましたが、やはり採録されていません。

そこで、目録データベースで検索して、原作に当たることにしました。『村のエトランジェ』（みすず書房）や『緑色のバス』（構想社）等に収録されていることが判りましたので、所蔵する『村のエトランジェ』に直に当たりました。この作品は、十九世紀バルセロナの蒐書狂の話ですが、原作にも読みは記されていません。次に小沼丹の作品論や文学全集の内容細目等にもいくつか当たりましたが、読み方は見つけられませんでした。

最後の望みをWebサイト情報にかけて、検索エンジンで「書盗」をキーワードに検索しました。雑多な情報に混じって一件、次のような情報が見つかりました。「『素敵な活字中毒者』椎名誠選集英社文庫…『書盗』（学燈 1914.09）内田魯庵」（※）。ここから、内田魯庵に「書盗」という作品のあることが判りました。幸いにも『内田魯庵全集』（ゆまに書房）は所蔵していますので、第7巻収録の原作に当たりました。魯庵はここで、ギリシャ語のbiblioklept や仏語のchipeur de livresに類する言葉が日本語にないので、前者を直訳した「書盗」という「語を成さぬ言葉」をそのまま使い「ビブリオクレプト」と読みを併記しています。

小沼の作品は、テーマも人物設定も魯庵の「書盗」の一節に酷似しています。成立年代から、小沼が魯庵の作品にヒントを得て創作したことが推測出来ます。しかし読み方は、魯庵の記したとおりとも言えず、素直に「ショトウ」と読むのかも判りません。ですから、質問者にはその旨回答しました。

（※）http://member.nifty.ne.jp/iwawi/dozou/kura6/be.htm

Q 「修辞的残像」いう言葉を、子ども論の講義で聴いた記憶がある。その言葉の意味と参考文献を教えてほしい。

A この質問は、外山滋比古氏が提唱した言語理論に関するものでした。外山氏の「修辞的残像」という見方は、'60年代に英米文学界や日本語学界を中心に注目を集めた見解であったようです。この質問に当たっては、「修辞的残像」という言葉を手がかりに、まず修辞学史の図書を調べました。その中の速水博司『近代日本修辞学史』（有朋堂）に、「『修辞的残像』（みすず書房）…外山滋比古」（初版垂水書房）の記述があり、外山氏に質問の言葉と同名の著作があることを知りました。残念なことに当館では、同書は未所蔵です。Web上の総合目録で、近隣の大学附属図書館で所蔵していることが判りましたが、研究室所蔵で貸出不可とのことでした。

そこで、再度学説史の図書を調査しましたが、詳しい解説は見当りません。Webサイトの情報も探しましたが、著者と書名を示す情報や断片情報ばかりでこちらが思うような情報は得られませんでした。

所蔵館に該当個所を複写依頼するという方法もあります。しかしそれは最後の手段です。当館では外山氏の著作を多数所蔵していますので、所蔵図書の中から類似主題と思われる図書を順に調査することにしました。その結果、『近代読者論』（みすず書房）の中に「修辞的残像の問題」と題した章があり、そこに以下のとおり簡潔にまとめてありました。

> 「言葉の表現を構成している各語の間にある空間は、一定の速度で読むと、ちょうど、フィルムの一こま一こまの間にある空白が消えるように、感じられなくなり、連続と運動が生ずる …この心的残像の作用をかりに『修辞的残像』と呼ぶことにする。…」

なお、この質問では、Webサイトの検索は、著者や書名の判明後行いました。このような話題となった作品の場合は、最初から検索エンジンで調査しておればある程度情報も見つかり、より迅速な対応が出来たのにと反省させられた事例でもありました。

（森川　博之）

レファレンス・あれこれ ⑰－②

児 童 室

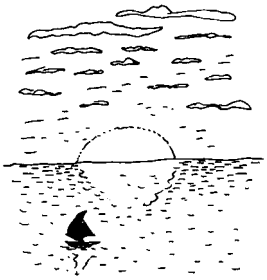
Q 月までの距離と海の底までの距離はどちらが遠いのか。

A 月までの距離は、『原色ワイド図鑑 天体・気象』（学研 1984）『月をみよう』（あかね書房 1979）『月をさぐる』（岩崎書店 1986）など天文に関する資料をあたれば、どれも平均で 38 万 4400 km だと書かれています。

では、海の底までの距離は…という事ですが、これが少し困りました。どの本を見ても、それを明確に書いている資料が見つからないのです。なぜかというと、海の底は動いていて常に変化しているからです。海の底の深い所は溝になっていて、その溝は“かいこう(海溝)”と呼ばれています。『海』加古里子ぶん／え（福音館書店 1983）という資料によると「かいこうの　なかの　いちだんと　ふかくなったところを　とくに　かいえんとよんでいます」と書かれていて、マリアナ海溝の“びーちゃじ海淵（かいえん）”が 11,034 m と図解されています。これが一番深いところのようですが、『世界大百科事典』（平凡社 1995）によると、近年は「海淵という語はほとんど使われなくなった」とあり、最新の『理科年表 平成 13 年』（丸善）では、最大深度は 10,920 m と表記されています。

これで、月までの距離の方が完全に遠いことが解りました。想像もつかないような 38 万 4400 km ですが、それは「ちょうど地球を 30 個ならべた距離」にあたり、「新幹線“ひかり号”に乗って走りつづけても八十日もかかる距離です」といわれると、少し身近に感じられて、興味もわいてくるのではないでしょうか。

（松村　順子）



郷土資料室

Q 当館所蔵の公文書で「明治 12 年の神社明細帳」に記載されている宇陀郡榛原町の「三十八神社」が見たい。

A 『明治十二年七月調　大和国宇陀郡神社明細帳』の第 125 号に「三十八神社」が記載されていた。

これによると、「堺県管下大和国宇陀郡上井足村字三拾八社　村社三拾八神社」とあり、祭神・由緒・氏子・境内外の所有地等が詳しく記されている。

「明細帳」とは、奈良県の公文書の一つであり、寺院と神社に大別でき、それぞれ明治 12 年調査と明治 24 年調査（明治 23 年 12 月指令）とがあり、前者は国の一斉調査であるのに対し、後者は前者を補うための県の調査であった。また、これら「明細帳」は、県内の寺院・神社調査の資料としてよく使われるが、最近では、「法人格承継証明」の申請書類としての利用が多い。

当館所蔵の公文書というのは、かつて県庁総務部文書学事課（現在、県庁総務部総務課）の永年倉庫に保管していた県庁起案文書・郡役所文書群のことである。当館にはその一部が移管され、ほとんどが県庁起案文書である。時期的には、明治初年から昭和 39 年までのもので、奈良県再設置以後の明治 20 年代から昭和初年までのものが圧倒的に多い。また内容は多岐にわたるが、なかでも社寺関係が圧倒的に多く、令達類・往復文書・旧幕関係・町村関係・国宝修理関係などが比較的まとまっている。

当館では、現在これらの資料データベース構築にあたっており、当館のホームページで試験的に公開している。これによって、公文書関連のレファレンスも増加傾向にあり、来館する人もまた増えてきている。

（西川　慶子）

シリーズ近代文学と奈良 10

奈良をこよなく愛した歌人・会津八一

会津八一は、明治 14 年（1881 年）8 月 1 日、父　会津政次郎、母　イクの二男として新潟で出生した。彼は、秋艸道人、渾斎と号し、歌人、美術史家、書家等と幅広い分野で活躍し数多くの業績を残した。ここでは、歌人として、そして主に奈良地方に関係する著作を紹介する。

会津八一が歌集を公刊、世に問うたのは大正 13 年（1924 年）が最初である。彼が、明治 41 年（1908 年）8 月奈良地方に初めて旅行し詠じたもの以後の作（殆ど奈良地方対象）を「南京新唱」、そして、巻末に「山中高歌」、「放浪唫草」、「村荘雑事」を加え、第一歌集『南京新唱』を出版した。序文は恩師坪内逍遥が書いている。「南京は南都とひとしく奈良の別名」であるが、八一はその自序で「われ奈良の風光と美術とを酷愛して、其間に徘徊することすでにいく度ぞ」と、奈良を愛する気持を吐露している。時に八一 44 歳。当時は全くの無名で、無印税・発行部数 800 部の条件の元で世に送った。

『南京新唱』

「南京新唱」の「博物館にて」で、

ほほゑみて　うつゝごゝろに　ありたたす
百済ぼとけに　しくものぞなき

と詠じている。百済観音は一時期法隆寺金堂から、奈良博物館へ移され、後に、法隆寺新宝蔵へ戻されている。八一は奈良博物館に移されている間に訪れている。後年、堀辰雄はこの歌に惹かれて、「太平洋戦争前夜の昭和 16 年（1941 年）10 月、前年に刊行された『鹿鳴集』（『南京新唱』をふくむ）をたずさえて、奈良をめぐった」といわれる。

昭和 9 年（1934 年）、八一は第二歌集『南京餘唱』を出版している（殆ど奈良地方対象）。これは、「南京新唱」以後の作を集めたものである。その中の、「奈良のやどりにて」で、

かすがのの　よをさむみかも　さをしかの
まちのちまたを　なきわたりゆく

は、常宿としていた日吉館で詠んだものである。

歌人としてのスタートが遅れ、且、無名時代が長く続いた八一にもやっと認められる時が来た。昭和 15 年（1940 年）出版の歌集『鹿鳴集』である。「南京新唱」、「南京餘唱」に手を加え、「斑鳩」、「南京続唱」等等も収録した。『鹿鳴集』公刊後、彼の歌人としての名声は急速に高まっていった。

順風満帆かに見えた八一に突然不幸が襲って来た。昭和 20 年（1945 年）4 月 14 日、B 29 による東京空襲で自宅を焼失、一夜にして、万巻の書を失った。それがため、新潟へ帰郷せざるをえなくなった。さらに、養女としていたキイ子が同年 7 月に死去し、八一にとっては悲しみの連続であった。

その悲しみを乗り越え、戦後、活発な作歌活動を続けていた八一が、晩年心血を注いだものがある。それは、歌集『自注鹿鳴集』の公刊である。昭和 28 年（1953 年）に刊行したこの歌集は、自序に「28 歳より 60 歳に至る予が所作を網羅したり」といっているが、「会津八一の文学者自画像の集大成でもあった」といわれている。それは、『鹿鳴集』に注釈を加えたものであり、八一最後の作となった。時に、73 歳であった。そして、3 年後の昭和 31 年（1956 年）11 月 21 日、76 歳をもって、故郷新潟で没した。

会津八一の歌碑は、現在、奈良県内で 13 基を数え、新潟県内と肩を並べる。八一をして、「第二の故郷」といわしめた奈良の地で、彼の歌が詠み継がれいくことを心より喜んでいるのは八一自身ではなかろうか。

※文中の年齢は数え年

＜参考文献＞

『會津八一全集』　中央公論社
『日本現代文学全集　會津八一集他』　講談社
『奈良近代文学事典』　和泉書院
『會津八一のいしぶみ』　新潟日報事業社
『文学者　會津八一論』　晃洋書房
『会津八一』　紀伊國屋書店

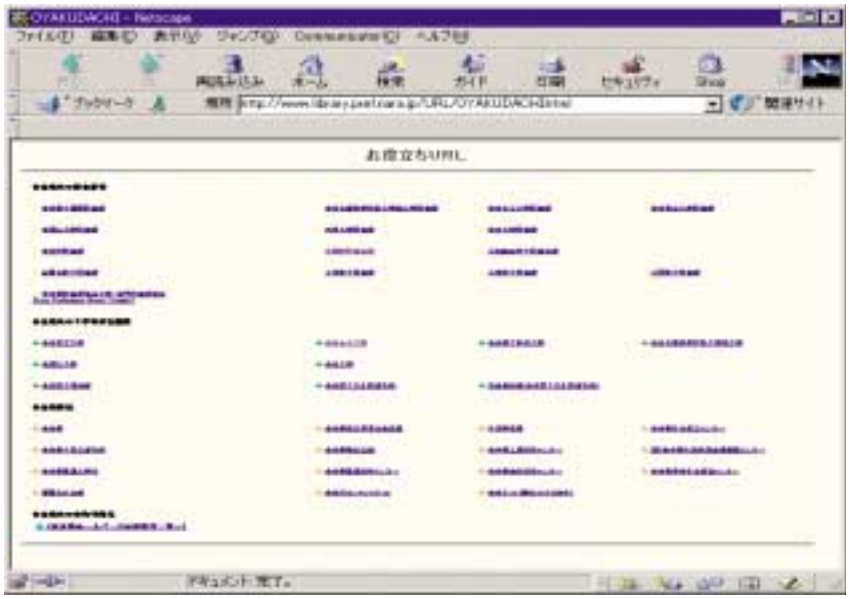
（潮田　　健）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　*ワンポイントアドバイス*　＊＊

前回（「うんてい」No.72）は、館内の検索用パソコンで、皆さんが必要な資料の所蔵検索をされ、該当資料が検索結果表示にあった場合に図書館のどの室にあるかについて説明しました。今回は館内の検索用パソコンを使って、当館の所蔵確認以外に何を調べることができるかについて、よく皆さんから質問いただくケース別で簡単に説明したいと思います。

① 当館に必要な本がない場合。

館内の検索用パソコンを使って、奈良県内の公立図書館の蔵書検索をしてみてはいかがですか。2002 年 1 月現在、奈良市立図書館、生駒市図書館、田原本町立図書館、王寺町立図書館、大淀町立図書館、川西町立図書館の蔵書検索が可能です。当館ホームページの「お役立ち URL」に県内図書館のリンク集がありますので、県内公立図書館の WEB 情報を見るときはご活用ください。



奈良県内の公立図書館に必要な本がなければ、さらに国立国会図書館や県外の公立図書館を調べてみましょう。これらについては日本図書館協会の WEB 情報である図書館リンク集を利用されることをおすすめします。日本図書館協会の図書館リンク集へはブラウザの URL 欄（「場所」の項目）に「http://wwwsoc.nii.ac.jp/jla/link/index.html」と入力し、リターンキーを押して見ることができます。

これらの方法で必要な本が見つかれば、図書館間の相互利用サービスで取り寄せることができます。（ただし、取り寄せにかかる送料は申込みされた方のご負担となります。申込み方法など、詳しくは係員におたずねください。）

② 当館未所蔵の雑誌に掲載された必要記事を他の図書館に複写依頼したい場合。

当館では国立情報学研究所のNACSIS-ILLという日本の大学図書館を中心としたオンラインによる図書館間の相互利用サービスに参加していますので、皆さんには国立情報学研究所のWEBCATという総合目録をおすすめします。WEBCATでは日本にある多数の大学図書館の資料所蔵確認が一括で簡単にできます。雑誌は本のように現物そのものを他の図書館から借受できない場合がほとんどですが、法律（著作権法）の定める条件で文献複写の依頼ができます。（ただし、取り寄せにかかる複写料、送料は申込みされた方のご負担となります。申込み方法など、詳しくは係員におたずねください。）WEBCATへはブラウザのURL欄に「http://webcat.nii.ac.jp」と入力し、リターンキーを押して見ることができます。

③ なるべく新しい行政情報（各種審議会の答申）や特許情報が見たい場合。

インターネットのWEBページでは、鮮度の高い行政情報が発信されています。奈良県に関する行政情報は「奈良県」のWEBページを、国の行政情報なら「電子政府の総合窓口」をおすすすめします。「電子政府の総合窓口」は各省庁のWEBページを一括検索できるので便利です。また、日本の特許情報は特許庁の「特許電子図書館サービス」が公開されています。「奈良県」のWEBページはブラウザのURL欄に「http://www.pref.nara.jp」と、「電子政府の総合窓口」はブラウザのURL欄に「http://www.e-gov.go.jp/index.html」と、特許庁の特許データベースはブラウザのURL欄に「http://www.ipdl.jpo.go.jp/homepg.ipdl」と、それぞれ入力しリターンキーを押して見ることができます。

このように、館内の検索用パソコンで様々な情報が得られます。皆さんの調査研究の道具として、どうぞご活用ください。（なお、それぞれのURLの確認日は2002年1月20日です）

（尾松　謙一）

奈良県「戦争体験文庫」

奈良県では、戦争に関わる体験を風化させることなく次世代に伝えていくため建設予定の新県立図書館に「戦争体験文庫」を開設すべく、資料を全国から収集しています。

収集しているのは、おおむね満州事変（昭和6年・1931年）の頃から第二次世界大戦終結後（占領体制が終了した昭和27年・1952年）の頃までの、戦争や戦争に関わる体験及び当時の社会や生活の様子を記録した資料です。

また、「戦争体験文庫」開設のため収集している資料とは、どのようなものなのかを広く皆様に知っていただくために、県立奈良図書館のロビーにおきまして、寄贈いただきました資料の一部を展示した「戦争体験文庫」紹介コーナーを設置しています。

Ｐｉｃｋ ｕｐ！

【テーマ】　『ペンギン

ペンギンは誰もが知っている動物のひとつです。そして一般的に「南極にいるかわいいいきもの」というイメージをもたれているのではないでしょうか。

私たちのまわりには、商品のイメージ・キャラクターやアニメの主人公になった“かわいいペンギン”が数多く存在します。全国各地で動物園などが行う動物の人気投票でペンギンは必ず 10 位以内に入る人気者なのだそうです。

また、ペンギンは南極以外の南米の乾燥地帯、赤道直下の島にも生息しています。そして、その厳しい自然と環境を生きています。

今回は所蔵資料からペンギン関係の資料を紹介させていただきます。見た目のかわいらしさとは違うたくましさをもつペンギンにも触れてみてください。

※　◆…一般書　◇…児童書
後ろの数字は請求記号

＜ペンギン入門＞

まずは、ペンギンの種類、大きさ、特徴などの基礎知識を。

◆『ペンギン大百科』
トニー・D・ウィリアムズ他 著　平凡社　488.6-4

◇『ペンギンたちの夏』
スーザン・ボナーズ作　福音館書店　488-ホ

◇『ペンギンの国』
青柳昌宏 著　平凡社　488-ア

◇『ペンギン図鑑』
上田一生 著　文渓堂　488-ウエ

＜もっと知りたいペンギン＞

ペンギンの生態、彼らをとりまく環境のことなどについても書かれています。

◇『ペンギンは何を語り合っているか　彼らの行動と進化の研究』
ピエール・ジュバンタン 著　どうぶつ社　488.6-3

◇『ペンギンの世界』
上田一生 著　岩波書店　080-18-743

◇『愛しのペンギン』
ロン・ナヴィーン 著　角川書店　488.66-ナヒン

◇『ペンギンたちの旅・病める南極海』
藤原幸一 著　桜桃書房　488.66-フジワ

◇『ペンギン、日本人と出会う』
川端裕人 著　文藝春秋　488.66-カワハ

＜いろんなペンギン＞

◇『ペンギン・南極からの手紙』
青柳昌宏 著　平凡社　488-66

◇『ペンギン記』
檀一雄 著　現代社　913.6-1616

◆『ペンギンのペンギン』
デニス・トラウト 作　リブロポート　937-トラ

＜ペンギンが登場するおはなし＞

◆『ながいながいペンギンの話』
いぬいとみこ 作　岩波書店　908-イヌ

◆『ペンギンのヘクター』
ルイーゼ・ファティオ 作　童話館出版　9-テ

◆『ぺんぎんくん、せかいをまわる』
M.レイ，H.A レイ 作　岩波書店　9-レ

◆『ホッパーさんとペンギン・ファミリー』
リチャード＆フローレンス・アトウォーター 著　文渓堂　933-アト

◆『ペンギンしょうぼうたい』
斉藤洋 作　講談社　913-サイ

（徳山　さおり）

利用案内

開館時間	閲覧室、読書室、学生室 9：00 ～ 20：00 郷土資料室、児童室 9：00 ～ 17：00
休館日	月曜日・祝日・月末・年末年始 図書点検期
交通案内	近鉄奈良駅から東へ徒歩 5 分

奈良県立奈良図書館報　うんてい　第 73 号　平成 14 年 3 月 30 日発行
《編集・発行》　奈良県立奈良図書館　〒630-8213 奈良市登大路町
TEL. 0742－27－0801　FAX. 0742－27－0865　URL http://www.library.pref.nara.jp/